

622行



3
河のあそ風景

4
三吉

すでに落日は 都市に冷い
都市は入江の奥に 橋を立たせてひさまる
夕昏れ子住居の稀薄のなかに
時を喪つる秋天のかけうを崩して
河流は 背中をそとけたる

失はれた山脈は みながみは雪をかいて眠る
雪の刃は遠くから 生活の眉間に光をあてる
妻よ 今宵もまた冬物のしたくを嘆か
粧れた菊は花瓶のポロリとにまつわり
生れ子子供を夢みをおれたちの祭もすむた
眠るといって腕をひらけば 河岸の風の中に
白骨と地をうした此の都市の上に
おれたちも
生きて 墓標

原

9本

1111

燃之あかき焔は波の面に

くだけ落ちるひびきは解放御料の山壁に

として

落日はすでに動かさず

河流は　　と　　う　　と　　う　　と　　風　　に　　波　　立　　つ